

令和元年分 琉球泡盛の移出数量等の状況

(令和2年4月7日 公表)

沖縄県酒造組合

令和元年 琉球泡盛の移出数量等の状況

平成31年1月～令和元年12月（令和元年）の琉球泡盛の移出数量等の状況は、以下のとおりです。

1. 製成数量

令和元年の製成数量は、15,349キロリットル（30度換算。以下同じ）で、対前年約7%の減少となっています。

これは、出荷数量の減少に伴う製成数量の調整や、古酒づくりの重点化等に伴い貯蔵タンクの空きがないなどの貯酒在庫の調整によるものと考えられます。

2. 移出数量

（1）琉球泡盛

令和元年の琉球泡盛の移出数量は、16,009キロリットルで、対前年4.9%の減少となっています。

全国の単式蒸留焼酎移出数量は、対前年比96.2%、琉球泡盛は95.1%となっており、同様な減少傾向がみられます。

移出先別にみると、県内は5.8%、県外は0.5%の減少となっていますが、海外は43.2%の増加となっています。

県内においては、消費者の嗜好の多様化や健康志向に伴う低アルコール選好などを背景として、引き続き泡盛消費の減少が続いていること及び昨年10月の消費税増税などが影響しているものと考えられます。

また、県外については、沖縄県の「琉球泡盛再興プロジェクト支援事業」などにより、9月までは前年比増で推移していましたが、10月の消費税増税や台風襲来などの影響で前年より減少に転じたことが考えられます。

一方、海外については、官民一体となった「琉球泡盛海外輸出プロジェクト」支援事業等を活用した販路拡大に向けた、取組みの結果によるものと考えられます

（2）リキュール

令和元年のリキュール出荷数量は446キロリットル、対前年12.8%の減少となっています。移出先別にみると、国内は382キロリットルで17.9%の減少となっている一方、海外は64キロリットルで38.6%の増加となっています。

3. 泡盛製造業の経営状況等

営業利益が1億円超の酒造所が1社ある一方、赤字となっている社が20社となっています。これは、他の酒類との価格競争の激化や設備稼働率の低迷、小規模によるコスト高の収支構造などによるものと考えられます。

また、泡盛製造業45社の営業利益は▲91百万円となっています。

営業利益が前年度より減少した酒造所は、資材の高騰や広告宣伝費等の販売促進費の増加、売上構成比が付加価値の高い古酒から付加価値の低い一般酒に逆転したなどが要因となっています。

一方、営業利益が前年度より増加した酒造所は、販売価格の値上、社をあげての経費削減、生産計画見直しによる設備の稼働効率化などが要因となっています。

4. 今後の取組

沖縄県酒造組合では、現在策定中の「今後の泡盛業界の振興に向けた短・中・長期的取り組み」の確実な展開により、県内、県外、海外への更なる需要拡大を図るとともに、確固たる経営基盤を確立し、地場産業としての一翼を担い、沖縄県経済に対する社会的貢献を果たして行くこととしています。

泡盛業界として、引き続き、より品質の向上に努めるとともに、消費者ニーズに合わせた商品開発や琉球泡盛のトライアル機会創出と泡盛のブランディングに取り組んでいきます。

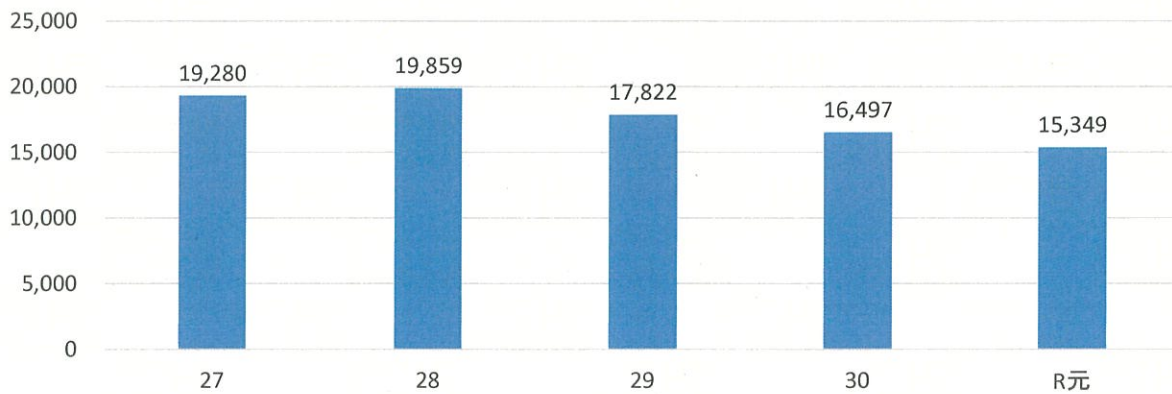
令和元年は、「第2回島酒フェスタ」の開催や、クルーズ船内での試飲体験や座学を兼ねたワークショップの開催など、観光地と酒造所の由来や結びつきなどを歴史的、文化的な視点で取り組む酒蔵ツーリズムへの取組を進めたほか、沖縄県の「琉球泡盛再興プロジェクト支援事業」や官民一体となった「琉球泡盛海外輸出プロジェクト」などの支援事業を活用し、販路拡大等に取り組みました。

こうした取組みの結果、海外への移出数量の増加につながっているものと考えられますが、こうした傾向を一層確かなものとするため、沖縄県の支援事業や官民一体となった「琉球泡盛海外輸出プロジェクト」などの支援事業を活用し、引き続き「移出型産業」を目指して、県外・海外での販路拡大に取り組んでまいります。

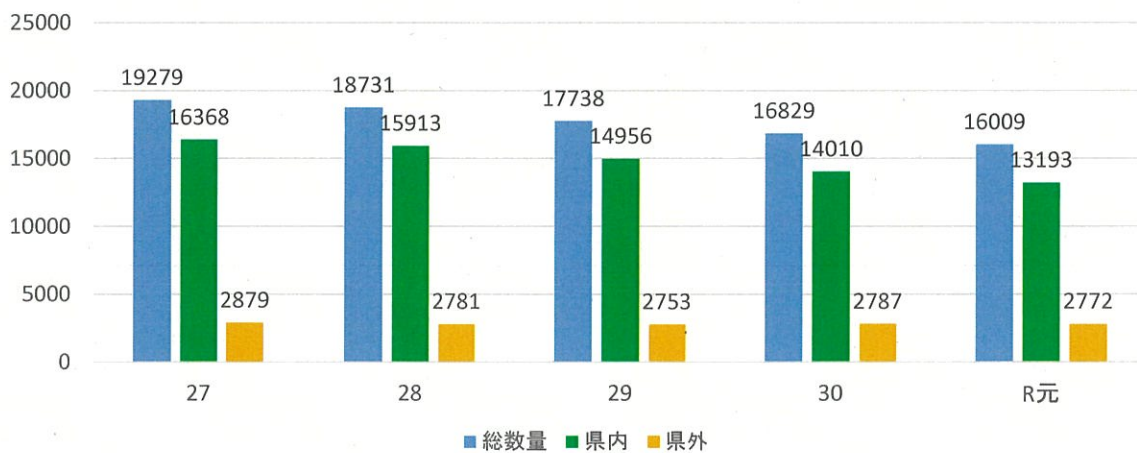
また、県内においては、女性や若者をターゲットとした効果的なプロモーションの実施消費者提案型のHPやSNSを活用した情報発信などの取組を一層推進することにより、新たな販路の開拓に向けて取り組んでまいります。

泡盛製造業界が一丸となり、様々な機会を通して泡盛の魅力を発信し、「琉球泡盛」の販路拡大を図ってまいります。

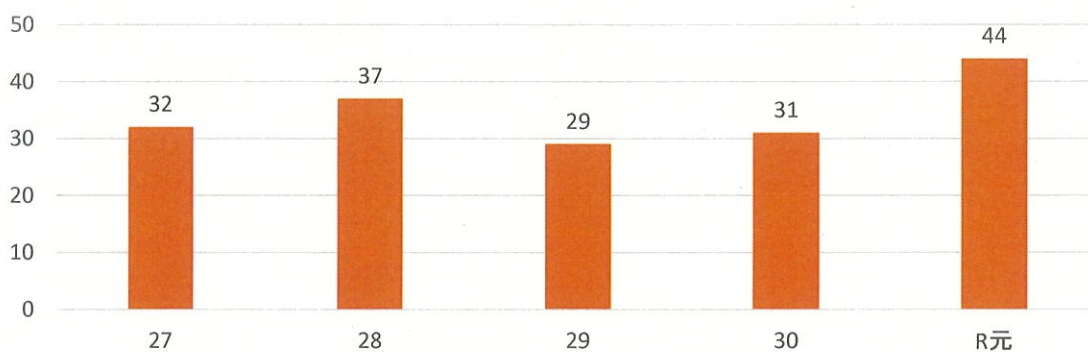
(図1) 製成数量(単位:キロリットル)



(図2) 移出数量(単位:キロリットル)

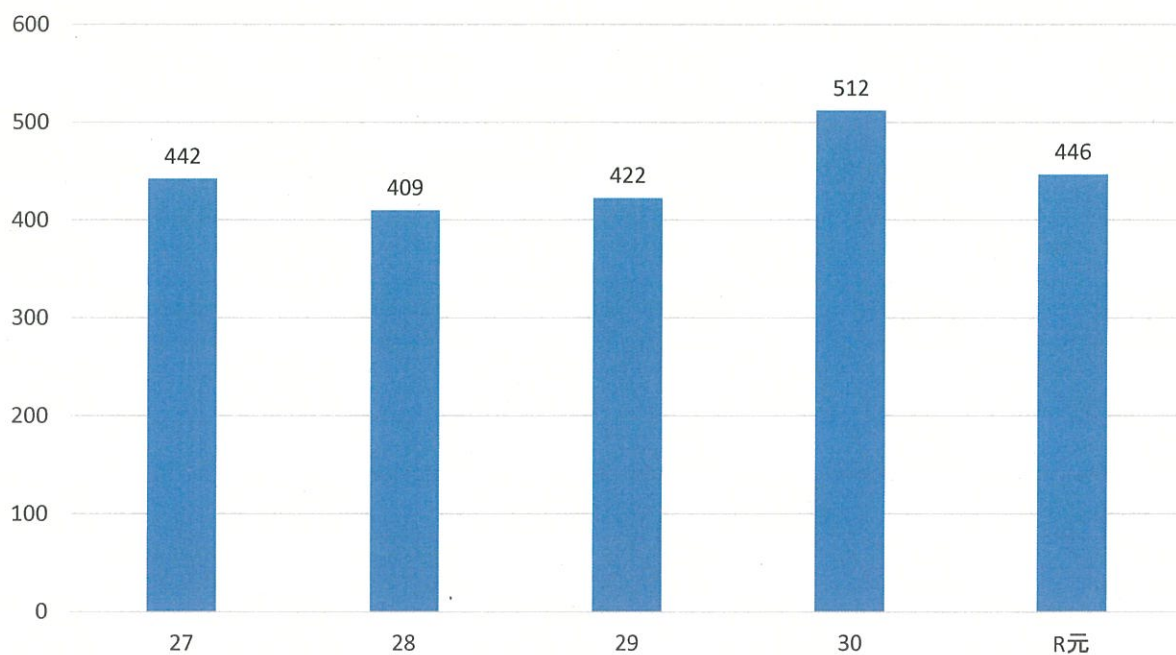


(図3) 海外輸出(単位:キロリットル)

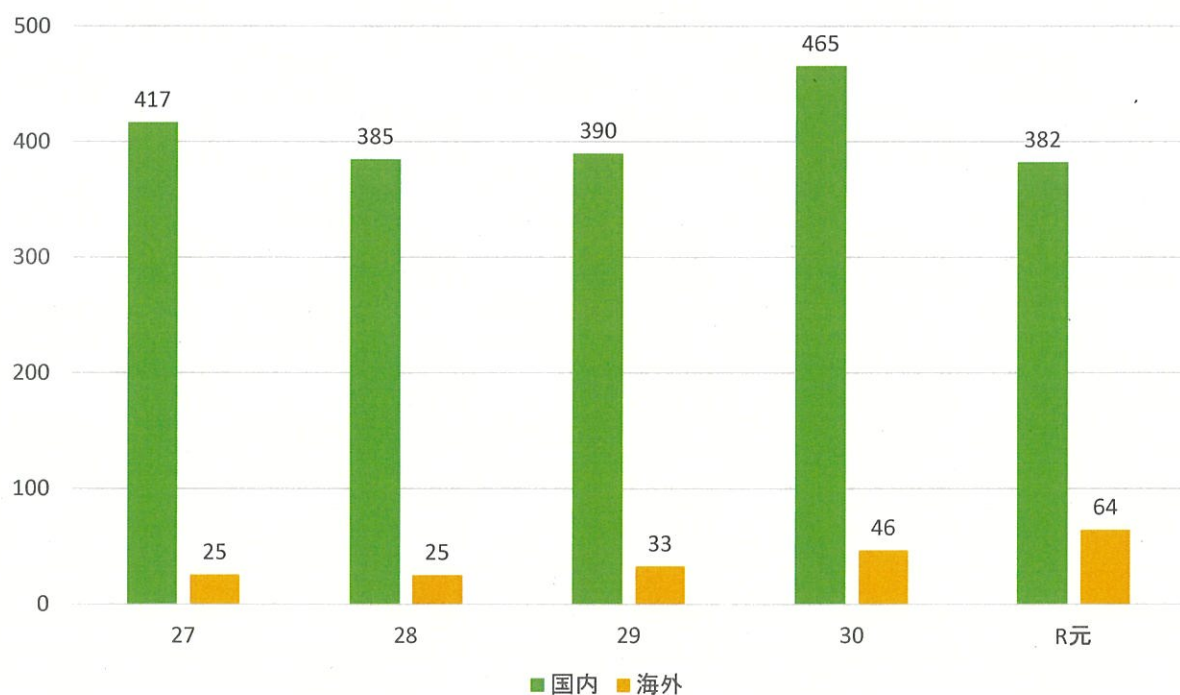


琉球泡盛輸出プロジェクトにおいて、2020年に70キロリットル、2022年に、100キロリットルの輸出目標を掲げております。

(図4)リキュール移出数量(単位:キロリットル)



(図5)リキュール国内外移出数量(単位:キロリットル)



(図6) 泡盛製造業の経営状況等

① 営業利益階層別の酒造所数

事業年度	28	29	30
営業利益			
1億円超	1	3	1
5,000万円超～1億円以下	2	1	1
1,000万円超～5,000万円以下	9	6	7
500万円超～1,000万円以下	5	4	2
500万円以下	12	14	14
営業損失	16	17	20
合計	45	45	45

② 経営状況

	泡盛製造業			(参考) 単式蒸留焼酎製造業(九州)
年度	28	29	30	29
企業数	45社	45社	45社	265社
売上高(百万円)	15,302	14,587	14,224	286,213
営業利益(百万円)	352	436	▲91	19,903
営業利益率	2.3%	2.9%	▲0.6%	7.0%

(図7) 泡盛製造業の製成数量規模別の事業所数

「泡盛製造業と、単式蒸留焼酎製造業との製成数量規模別比較」

製成数量規模	泡盛製造業				単式蒸留焼酎製造業			
	事業所数	割合	製成数量	割合	事業所数	割合	製成数量	割合
100kl以下	26	55.3%	985	6.4%	85	28.8%	3,311	0.8%
100～200kl	7	14.9%	982	6.4%	34	14.6%	4,499	1.1%
200～400kl	4	8.5%	1,137	7.4%	23	9.7%	6,339	1.6%
400～600kl	3	6.4%	1,639	10.7%	13	3.4%	6,304	1.6%
600～2,000kl	4	8.5%	3,610	23.5%	32	12.7%	36,030	9.1%
2,000～5,000kl	3	6.4%	6,996	45.6%	13	5.2%	38,878	9.8%
5,000kl超	0	0.0%	0	0.0%	14	4.9%	300,972	75.9%
合計	47		15,349		214		396,333	

※泡盛製造業は平成 31 年分 1 月～令和元年 12 月の状況

※単式蒸留焼酎製造業は「単式蒸留焼酎製造業（専業者のみ）の概況（平成 29 年度調査分）」（国税庁）から作成

- 製成数量については、泡盛製造業は、2,000～5,000kl の事業所が半数近く（45.6%）を占めるが、単式蒸留焼酎製造業は 5,000kl 超の企業で 7 割以上（75.9%）を占めており、泡盛製造業は規模が小さい